

令和6年9月27日

報道関係者各位

一般社団法人 中部地域づくり協会

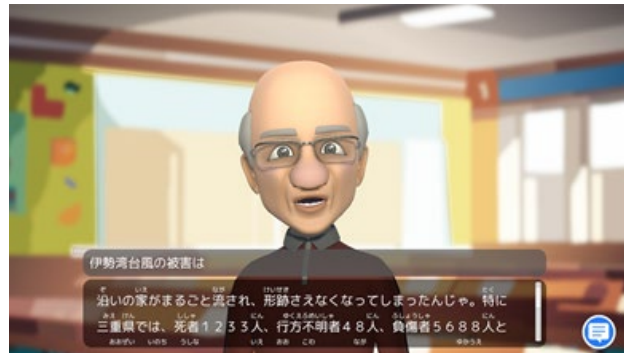
～伊勢湾台風から65年～
伊勢湾台風のAI語り部、
名古屋市港防災センターの企画展で展示開始

伊勢湾台風は発生から65年を経過し、当時の記憶を伝える方々も高齢化により減少してきています。その様な中、中部地域づくり協会では、記憶を風化させず伝承するため、AIを活用した「伊勢湾台風AI対話システム」（概要は別紙）を制作しました。

この度、このシステムを名古屋市港防災センターで開催中の「伊勢湾台風65年企画展」で展示します。訪れた皆様が、AIによる語り部から伊勢湾台風について学ぶことが出来ます。是非、AI語り部との会話をご体験下さい。



(AI語り部と対話している様子)



(対話している画面のイメージ)

【展 示】

期 間： 令和6年9月28日(土) ～令和6年11月24日(日) 9時30分～16時30分

場 所： 名古屋市港防災センター

〒455-0018 名古屋市港区港明一丁目12-20 (TEL) 052-651-1100

【問合せ先】

(一社)中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所長 犬飼 一博 TEL 052-871-9380

〒467-0856 名古屋市瑞穂区新開町21-10

*中部地域づくり協会は、国土の利用、整備、保全、災害防止などの事業を行い、国土の健全な発展に寄与することを目的とする一般社団法人です。

伊勢湾台風から65年に向けた取り組み ～ AIで伊勢湾台風を次世代へ～

(別添資料)

(一社) 中部地域づくり協会

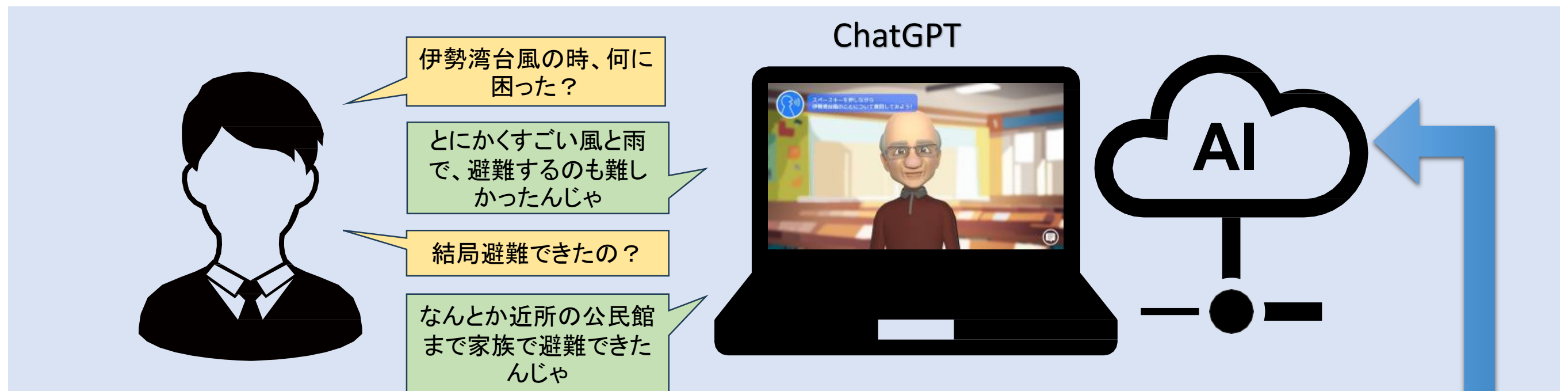
趣旨

伊勢湾台風から65年、当時の記憶を伝承できる方々も高齢化により減少してきている。一方、近年の水害は激甚化してきており、この地域でも大規模水害に襲われてもおかしくない。令和6年9月26日に、伊勢湾台風から65年を迎えるにあたり、記憶を風化させず伝承することを目的に「伊勢湾台風AI対話システム」を制作し、次世代を担う子供たちが伊勢湾台風の体験談などを分かりやすく学び、自分事として捉えることで地域防災力の向上に繋げる。



概要

AI会話ツールChatGPTを活用し、AIに伊勢湾台風被災者の立場で回答させ、被災者と対話しているかのような体験をする。マイクに向かって自由に発話すると、ChatGPTが回答を生成。画面上の被災者(バーチャルキャラクター)がその回答を発話する。一方的に話を聞くだけでなく、対話型で利用者の興味関心に基づいて伊勢湾台風について理解を深められることで、より自分事として捉えることが出来る。防災学習支援を念頭に、小・中学生を対象とし学校での防災講座に活用する。



想定される質問に対して、伊勢湾台風の基本事項や体験談などを学習*

* 10校の約560名の児童・生徒から聴取した約870個の質問に対し、文献や記念誌などをもとに回答を作成し学習させている